

# 令和3年度 第1回 大阪府立大学 学長選考会議 会議録

日 時 令和3年10月18日（月）13時45分～14時50分

場 所 健康科学イノベーションセンター

出席者 外部委員（経営審議会委員）：大西委員（オンライン）、土屋委員、福島委員

外部委員（教育研究審議会委員）：仁科委員

内部委員（教育研究審議会委員）：奥田委員、牧岡委員

## 議 事

### 【議事事項】

#### 1 議長等の選出について

事務局から、公立大学法人大阪定款（以下、「定款」という。）第11条7項に基づき、最初に議長の選出を行う必要がある旨の説明があり、委員の互選により福島委員が選出された。

後ほど審議される学長選考会議規程（以下、「会議規程」という。）第5条第3項に規定されている職務代理者について、福島議長から土屋委員が指名された。

#### 2 会議の運営について

福島議長から、会議の公開・非公開について、忌憚のない意見交換を目的として非公開とするが、選考過程の透明性を図るべく、議事録については大学 Web サイトに掲載してはどうかと提案があり、委員一同了解した。

#### 3 学長選考規程等の制定について

事務局から、会議規程、学長選考規程（以下、「選考規程」という。）、学長の任期に関する規程及び学長解任規程の制定について説明があった。

委員より、「大阪府立大学学長選考会議規程」について、第6条5項に「議長は、必要があると認めるときは、書面その他の方法により委員の意見を求めることにより、選考会議の決議に代えることができる。」と規定されているが、オンラインによる方法を活用した会議開催についてより明確に記載すべきではないかと意見があった。事務局より修正案を会議後に提示することとなった。

委員より、今回は本選考会議で会議規程についても定めることとなっているが、法人で制定する必要はないかとの質問があり、定款に基づき本会議で定めることで問題ない旨事務局より回答した。

#### 4. 学長の選考について

事務局から、学長選考に関する地方独立行政法人法及び定款の規定について説明があり、選考

規程第4条に「学長の選考方法については、選考会議において決定する」と定められている旨確認がなされた。

続いて、事務局から今回の選考の時期について、辰巳砂現大阪府立大学学長の任期は2022年度末までとなっているが、今年度末で現学長の任期が満了する大阪市立大学と時期をあわせて選考し、大阪公立大学発足時から2024年度までの3大学の執行体制を確定するため、1年前倒しで今年度選考いただきたい旨説明があった。

また、辰巳砂現大阪府立大学学長が大阪公立大学の学長予定者に決定していること、理事長の諮問機関である新大学学長予定者推薦会議及び法人内の新大学推進会議における議論の経緯並びに再任に関する規定について事務局から説明があり、議長あてに辰巳砂学長の再任の意思表明を預かっている旨、報告があった。

福島議長より、事務局から説明のあった事項も踏まえ、大阪公立大学と大阪府立大学を一体として機能的に運営していく必要があること、本人の再任の意思も確認できていることから、本選考会議としては、新大学の学長予定者である辰巳砂昌弘氏を選考対象者としてはどうかとの提案があった。委員による議論の結果、辰巳砂現学長に引き続き学長の任にあたっていただくことが最適であるとして辰巳砂学長の再任を全会一致で決定した。

なお、各委員の意見は下記のとおりである。

- ・現学長として学内で支持されている。研究面では、全固体電池の研究の第一人者であり、この研究はサステナビリティという今後重要な視点においても、非常に重要な研究分野である。そのような方が学長を務めるといのは学内的にも望ましいことである。教育面では、指導大学院生が高名な賞を在学中に受賞するなど、優れた研究室運営をされてきた。本学が理想とする教育者・研究者を体現されている。コロナ禍における危機管理の面でも的確に判断されている。
- ・お一人で三大学の運営を担うとすると非常に負担が大きいため、支援する仕組みを考えないといけない。その点については検討いただきたいが、理念として一人の方が三大学を一体的に運営することについては賛同する。また、その予定者として辰巳砂学長は教育・研究に対する理念、大学運営に関する確かな考えをお持ちであり、適格である。
- ・現在も、学長自身がリーダーシップを発揮するとともに、副学長、学長補佐が学長を補佐する体制で大学運営を行っている。副学長、学長補佐ともに、適切な人材が選出され、それぞれ明確な役割を担っている。また、学長は周囲の意見にも真摯に耳を傾け、実際に軌道を修正することが出来る方であり、多方面への配慮も忘れない方である。新大学の学長、大阪府立大学の学長を兼ねることとなった際も、副学長などのスペシャリストとともに、着実に大学の運営に取り組まれると思う。
- ・これまでの研究者、教育者としての実績、及び大阪府立大学学長としての実績については言うまでもない。あわせて、大阪公立大学の学長予定者としても法人内・対外的にも精力的に取り組まれてきたことを評価したい。新大学がスタートする際は一体化に注力すべきであり、大阪府立大学の学長を兼務するというのは適切と考える。
- ・辰巳砂学長は人格的に真摯であり、誠実な方である。辰巳砂学長の研究分野の講演も拝聴し、

素晴らしい研究成果を上げられている方だと再認識した。また、様々な方面へも細やかに配慮いただいている。新大学と大阪府立大学を一体的に運営いただくというお立場として最適である。

委員から、大阪公立大学の辰巳砂学長の任期満了後など、今後の三大学の運営はどうなっていくのかについて質問があり、過去の大阪府立大学の統合の経緯から通常の学年進行が終了すると学生数がかなり少なくなるため、ほぼ新大学の運営が中心となる旨、大阪府立大学の統合の経緯を知る委員より発言があった。

最後に、委員から質問があり、選考結果の公表について事務局より以下のとおり説明があった。

- ・会議後、選考会議から選考結果を理事長に速やかに通知
- ・学外には、12月21日（火）の経営審議会後、大阪市立大学の選考結果とあわせて大学 Web サイトに公表する

委員より、大阪府立大学・大阪市立大学の選考結果が同時に公表となるように留意して進める必要がある旨、発言があった。

#### 【備考】

オンライン会議システムを併用した選考会議は、適宜的確な意見交換が互いにできる状態であることを確認しており、終始異状なく議題の審議を終了した。